
cross fantasia

遠見陸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

cross fantasia

【Nコード】

N8741D

【作者名】

遠見陸

【あらすじ】

失いたくない気持ちと交錯する想いに悩む主人公、過去に縛られ、前に進むことが怖くなってしまった少女たち、心が傷つき、壊れそうになっても耐えて歩み進んだ先にあるものとは何か？彼らは歩み始めた。

第1節：始まり

流れる風に消えていく幻想曲
空に浮かぶ紅い夕日は何故か僕を不安させた：

退屈な学校が終わると、早々と帰りの準備を済ませ放課後いつもいつもいつもいる公園に向かった。

僕の名前は早河奏^{はやかわかなで}、母さんがつけてくれた名前だ。今年高校生になり、新しい生活が始まった。部活とかはあまり好きな方ではないので、高校でもやらなかった。

だから、友達もいないし、人付き合いは苦手だ。でもそんな事どうでもいい話だった。

学校から少し歩いて、坂を越えた高台のところにある少し古くて、人も滅多にこない淋しい感じがする公園が僕の居場所だった。小さい頃からこの公園が好きで、よく遊んでいた。

でも何か大事なことがあったような気がしていたけど、曖昧な記憶はいつも僕には解らなかった。

僕はいつもこの公園で母さんがくれたヴァイオリンを弾いていた。今もそのつもりでこの公園に来たのだ。

しかし、今日は少し違っていた、高台から街の景色を望む positioning でヴァイオリンを弾いて、何も変わらない日常を終わらせようとしていたのに、後ろから女の子が僕に話しかけてきた。

「綺麗な音色、でも少し悲しい…」

僕は振り返り、声のした方に目を向けた。そこには沈みかけの夕日に照らされた一人の少女がいた。僕と同じ学校の制服を着ていたのと同じ学校の生徒だとわかった。高校生よりは若干幼い感じで、細

く繊細で簡単に壊れてしまいそんな雰囲気の子だった。

「…君は？」

短い沈黙の後、考えたというよりは、反射的に声が出た。僕は少しびっくりしていたんだと思う。女の子はただ僕のことを見ていた、そうして見られていた僕は気まづくなり地面に顔を向けた。

「公園に着たらただあなたがいて、それで…うん何でもないので、さよなら」

女の子はそういって公園を出て行った。声もかけずに僕は女の子の後姿を見送った。姿が見えなくなる頃ヴァイオリンをカバンにしまい、僕自身も家に帰ることにした。

出会った少女は僕の曖昧な記憶の断片に微かに引っかかるような、ただそんな感じがした。

でも結局、曖昧な記憶でしかなくて僕にはまだ解らなかつたんだ。

第1節：始まり（後書き）

つたない文章ではありますが、それでも読んでくれるとうれしいです。
もしよかった感想等もお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8741d/>

cross fantasia

2010年12月3日14時37分発行